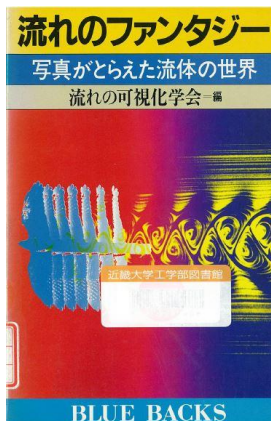


暮らしの中の流れ楽：流れを視る

角田 勝（機械工学科）



『流れのファンタジー： 写真がとらえた流体の世界』

流れの可視化学会編、東京：講談社

私たちは毎日様々な流れと関わって生活しています。流れを利用するためには、「百聞は一見に如かず」という格言どおり、現象をよく観察することです。流れが描き出す姿は美しく、ときには神秘的です。

本書では、川・海や大気の流れ、工場や管路内の流れ、飛行機・自動車や船などの周りの流体の流れ、音速を超える飛翔体の周りや野球ボールの変化する様子、など身の回りの様々な流れ現象が写真で紹介されています。

このように私たちの生活に深く関わっている水や空気の流れを対象とする流体力学は、機械工学をはじめとして建築学、化学工学などあらゆる自然科学の分野で非常に重要な役割を果たしています。流体の運動は複雑怪奇なものとして捉えがちです。流れを利用するためには、まず流れの性質をよく知ること、そして流れに共通なものとは異なっているものを判別して流れを理解することが大切です。そう、流れの仕組みを知り、フロー・メカニズムを解明することです。通常、流体の運動はそのままでは見ることはできませんが、近年の技術は多くの流れの可視化を可能にしています。

本書を通じて、暮らしの中の流れ学を楽しんでみませんか。